

青木村消防団広報

KODAMA

発行所 / 青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111
発行責任者 / 林 正男 編集 / 青木村消防団本部班

No. 19

発行：平成27年2月1日



平成 26 年度青木村消防団役員と退団者の皆様



平成二十七年青木村消防出初式 式辞

団 長 林 正 男

輝かしい平成二十七年の新春を迎え、長い歴史と伝統を誇る青木村消防 出初式が、来賓各位のご臨席を賜り、ここに盛大に挙行できます事は、団員と共に喜びとするところであります。また、団員各位とご家族の皆様に対しまして、日頃のご活躍とご苦勞に深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、当村におきましては火災2件、自然災害で1件の出動がありました。幸いにも人的災害はなく、最小限の災害に食い止める事が出来ました。これも川西消防署職員の皆様のご協力と、日頃からの村民の皆様の防災意識の高さ、ならびに団員諸君の予防広報活動の賜物と感謝いたします。近年では自然災害が大規模化、多様化している中で、県内では、2月に大雪による災害を始め、南木曾町の土石流災害、御嶽山の噴火、そして県北部で発生した神城断層地震と、自然の脅威を深く感じたる年であり、被災地では、今もなお避難生活を余儀なくされている方や行方不明者が、大勢いらしゃいます。マスメディアではあまり出てきてお

りませんが、我々と志を共にする消防団員も被災しながらも、献身的に活動を続けていると思うと、胸が痛くなります。災害に遭われた方々が普通の生活に戻るには長い年月がかかる事でしょう。我々は少しでも支援を続け、自然災害の脅威を忘れることなく、胸に刻み防災の意識を常に持ち続けなければならぬと考えております。当村におきましても、近年台風やゲリラ豪雨等による水害の発生は年々増加傾向にあり、村民の皆様から我々消防団に寄せられる期待も、より大きいものになっております。また、少子高齢化が進み、全国的にも消防団員が不足している中、生活様式の変化もあり、今後は村民の皆様と連携を取り、活動をする場面が増え団員諸君にかかる負担も増える事でしょう。その状況下にあっても我々消防団員は、「自分たちの村は、自分たちで守る」という郷土愛護の精神を忘れてはならないと考えます。どうか団員諸君におかれましては、消防団員としての、重要な使命を再認識されると共に、多様化する災害から地域住民皆様の安全と繁栄の為に様々な訓練に励まれる事を、切望するところであります。

また、本村の機械器具並びに、消防施設につきましては年々更新と整備が着実に進められており、団員の家族に対しては地域消費券の配布、そして可搬ポンプの更新や雨天時用にレインウェアの支給をして頂くなど、格段のご配慮をして頂きました。この事は団員の士気の高揚と同時に、災害時の活動の一層の効率化が期待されるものであり、村当局の防災と、消防活動に対する深いご理解の賜物と、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。そして今回退団されます、杏掛前団長をはじめとする退団者各位におかれましては、長年に渡り青木村消防団を支えて頂いた事に対し、心より感謝申し上げます。

今後、我々消防団員は、複雑多様化していく災害に対し、郷土愛護の精神を忘れる事無く、諸先輩方の築き上げてこられた伝統ある青木村消防団の業績と消防精神を継承し規律を重んじ消防技術の向上を図りながら、先輩方にご尽力頂き、昨年より入団した女性消防団員と共に、より一層の努力をする所存であります。

結びに、本日まで臨席を賜りました来賓各位、並びに団員諸君の益々のご健勝ご多幸を祈念申し上げます。式辞と致します。

平成26年を 振り返って

副団長 岩下竜太郎



昨年4月より新役員により本部を運営してまいりました。各分団、各団員の協力により

1年を通して実りある活動が出来ました。また、村民の皆様へ深いご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年度は団員の技術向上の為に各種訓練はもとより、団員間、分団間の横のつながりも意識してまいりました。団員の若返りを図る為にも、諸先輩方より受け継いだ縦のつながりをベースに更なる横のつながりの増強を進めてまいりました。その1つに女性団員の加入があります。村の安心安全を守る同士として共に頑張っていきたいと思っております。

出初式では小学校4年生の参加もありました。伝統の上に新しい形を築きながら村の安心安全のために努力してまいります。更なるご理解ご協力をお願い致します。

ありがとう ございました

本部長 増田 憲寛

今年度も残すところ2ヶ月あまりとなりました。まずは本部長という事で、本部の一員となり、最初はその責任の重さにとまどい、またご迷惑もおかけしましたが、本部をはじめとした団員の皆さんの日頃からの協力があって何とか務めることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今年度は、伝統ある青木村消防団史上初の出来事が二つありました。ひとつは「女性消防団」の誕生、もうひとつは小学校四年生による「あおきっこ消防応援団」の誕生です。先日行われた出初式で、その姿を目の当たりにし、大変うれしく思いました。今後とも彼女たち、彼らのような将来の担い手を含め団員は、それぞれ仕事、家族を持ちながら日々一生懸命活動を行ってまいります。どうか、住民の皆様には、活動に対してご支援ご理解をお願い致します。



一年間の活動を 振り返って

水利救護長 杵掛 浩



村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年度を振り返りますと、村内では火災や雪害が発生しましたが、地域の皆様の防災意識の高さにより、被害を最小限に抑える事が出来ました。また県内で発生した火山の噴火や土石流・大きな地震による甚大な被害を目の当たりにし、自然災害の恐ろしさと日頃の備えが重要であることを再認識しました。そして、婚活イベントやバレー大会、女性消防団員に関する説明会等のPR活動や、通常の訓練に加えて、消火活動と避難誘導を同時に行う火災想定訓練を実施致しました。また、青木村消防団の歴史で初めて女性団員が誕生した特別な年となりました。今後は男女の区別なく活動して参ります。

村民の皆様には今後とも消防団活動と団員確保に、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

一年間の活動を 振り返って

ラッパ長 西戸 隆司

村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し深いご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

本年度は五月に車輛火災と、わら小屋を焼く火災がありましたが、他に大きな火災・水害などは無く比較的穏やかな年でした。しかし、全国各地では大規模な自然災害が発生し、県内でも多くの人命、財産が失われました。現在は「天災は忘れないうちにやって来る」です。防災意識を今以上に高めていただければと思います。

伝統ある青木村消防団に、初めて女性団員が加わりました。現在三名です。今後、消防団活動の一翼を担う大きな力となっていくと思っております。皆様には男女問わずの入団をお願いすると共に、今後とも消防団活動への



ご理解ご協力をお願いいたします。

一年間の活動を 振り返って

警備長 辻 勝彦



村民の皆様には日頃より消防団活動に対し深いご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年度は火災水害に対する各種訓練はもとより、特別養護老人ホームと連携し、避難誘導訓練を加えた総合防災訓練を実施し、団員の知識技能の向上を図って参りました。

警備班としても夏祭り等の村の行事に参加し、皆の協力もあり無事に終わることができた事は嬉しく思います。今後とも皆様のご理解ご協力を頂きますよう、よろしくお願ひ致します。

この一年、消防団役員として村民の皆様をはじめ各方面の方々、団員各位のご協力により職務を全うできたことに改めて感謝致します。